

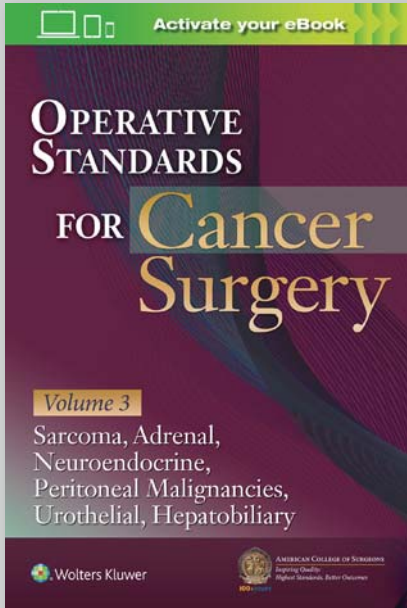
がん手術の適切な技術的実践について、米国外科学会がエビデンスに基づいて推奨、提案するOperative Standards for Cancer Surgeryシリーズの第3巻。非上皮性、副腎、神経内分泌、腹膜、尿路上皮、肝胆の各悪性腫瘍を対象とする本書は、最新のエビデンスをベストプラクティスや技術に集約し、アウトカムの向上を後押しする。

皮膚切開から縫合まで、手順の各段階に焦点を当てており、腫瘍外科専門医や一般外科医にとって極めて有益なリソースとなる書である。

#### 本書の特長：

- 正確な手技を素早く把握できる、明瞭かつ実践的なテキストと 150 点を超えるイラスト
- 参照可能な最有力エビデンスを専門家が分析し、まとめた有益なコンテンツ
- 腫瘍外科学で論争となっている分野の理解を深める考察
- 米国外科学会、Alliance for Clinical Trials in Oncology (腫瘍学臨床試験同盟)、全米にわたる複数の外科/腫瘍学会など、多様な団体に所属する各エキスパートの知識を集結させた一冊

本書には、タブレットやスマートフォンにダウンロードして専用アプリからいつでもアクセスできるインタラクティブな eBook 版がバンドルされている。



**Operative Standards for Cancer Surgery: Volume III: Hepatobiliary, Peritoneal Malignancies, Neuroendocrine, Sarcoma, Adrenal, Bladder**

AMERICAN COLLEGE OF SURGEONS  
CANCER RESEARCH PROGRAM

【外科】

ISBN: 978-1-9751-5307-6  
560ページ | Paperback  
15,301円 (税込)

\*価格は変更することがあります